

社会

1 出題のねらい

「地理的分野」、「歴史的分野」、「公民的分野」から均等に出題し、我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関する理解と、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力をみることをねらいとした。

- (1) 「地理的分野」については、地理的事象を地図や資料との関係において出題し、世界と日本の地域構成、世界や日本の様々な地域に関する自然環境や産業などからみた地域的特色などについて問うものとした。
- (2) 「歴史的分野」については、歴史的事象を年表や資料との関係において出題し、我が国の古代から近現代までの各時代の特色と移り変わり、我が国と世界の歴史上の関連などについて問うものとした。
- (3) 「公民的分野」については、現代の社会的事象を資料との関係において出題し、現代社会の特色、政治のしくみ、経済のしくみ、国際社会の諸課題などについて問うものとした。

2 結果の概要

平均点は 22.2 点で、昨年度より 3.2 点上がった。日常の社会生活と知識が結びついた問題については、正答率が高い傾向にある。しかし、全分野を通して基本的事項の定着が十分ではない。また、資料から情報を読み取り論述する問題については、問題の意図を正しく捉え、情報を正確に読み取る力や、根拠をもって論理的に表現する力に課題がある。

- (1) 平均点(50 点満点)の推移

年 度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
平 均 点	22.2	19.0	25.1	23.4	24.9

- (2) 正答率の推移

年 度	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3
地理的分野	48.9	36.8	65.7	54.3	46.2
歴史的分野	42.8	37.1	31.8	49.7	43.3
公民的分野	53.5	42.0	55.2	47.4	61.6

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント（【 】は該当問題番号）

- ☞① 社会的事象や歴史的な事柄を正確に理解させること。【1】1(1)、【2】3 など】

【1】1(1)、【2】3それぞれの問題の誤答として、「親潮」「千島海流」「対島海流」、「執権」「老中」が多く見られた。【1】1(1)では海流の種類や特徴について、【2】3では各時代の政治体制やしくみについて、整理できていないことが背景にあると考えられる。これらを正確に理解させるためには、図や写真等の資料を利用し、関連した情報にも着目させることや、異なる時代の政治体制を比較し、共通点や相違点を挙げさせ、それぞれの時代の特色と違いに気付かせることが重要である。また、学習内容を表現・共有する場面において、基本的事項の正確な理解や定着について見取り、指導に生かすことが大切である。

- ☞② 問題の意図を正しく捉え、資料から情報を正確に読み取り、根拠をもって論理的に表現する力を付けさせること。【1】2、【4】1(4)、【6】3(2)など】

【1】2では、「北海道の耕地面積は全国の耕地面積の3分の1である」のような、資料から情報を正確に読み取ることができていない誤答が多く見られた。また、【4】1(4)と【6】3(2)では、問題の意図を正しく捉えることができておらず、資料の中の情報を書き出しただけの解答が多かった。問題の意図を理解して情報を正確に読み取るためには、教科書等にある資料から注目すべき情報に気付き、情報の意味を既習事項と繋げて考察する経験を重ねさせることが必要である。そのうえで、整理・分析・考察した情報を用いて表現する活動を繰り返し、根拠をもって論理的に表現する力を身に付けさせる指導をしていくことが重要である。

問 題			正 答				正答率	誤答率	無答率
1	1	(1)	記号	C	名称	黒潮	66.0	33.5	0.5
			記号	D	名称	対馬海流	30.3	68.4	1.3
		(2)	(例) 冬に降雪量（降水量）が多く，農作業ができないため				29.3	60.8	6.4
			部分点				3.5		
	(3)	ウ				44.1	55.6	0.3	
		2	(例) 北海道は，全国に比べて農家1戸当たりの耕地面積が大きく，大型機械を使った農業が行われている。				25.5	61.5	4.5
	部分点				8.5				
3	イ				64.9	34.3	0.8		
2	1	イ				75.3	24.2	0.5	
	2	ウ				49.5	50.2	0.3	
	3	管領				22.6	70.0	7.4	
	4	イ				45.4	53.0	1.6	
	5	吉宗による幕府の政治改革		享保の改革			41.0	39.9	19.1
		新田開発の目的		(例) 年貢の収入を増やして，財政を立て直すため。			31.4	49.4	16.5
		部分点				2.7			
3	1	(例) 私が家族や学校，地域という集団に属しているように，人間はさまざまな社会集団の中で生きているから。				25.5	45.5	12.0	
		部分点				17.0			
	2	ウ				46.3	52.9	0.8	
	3	憲法の番人				53.2	37.2	9.6	
	4	ウ				86.4	13.6	0	
5	イ， エ				30.6	69.4	0		
4	1	(1)	焼畑農業				73.1	18.9	8.0
		(2)	ア				59.6	40.4	0
		(3)	イ				70.7	29.3	0
		(4)	(例) 日本企業の進出により設立された製造業の企業数が，2001 年度に比べて 2022 年度は増加している。B 国の製造業における月額賃金が日本と比べて安いことが，理由として考えられる。				31.9	52.7	13.0
	部分点				2.4				
2	ウ				42.0	57.5	0.5		
5	1	自由党				40.7	48.1	11.2	
	2	ア				71.0	28.2	0.8	
	3	(例) 有権者の資格が満 25 歳以上のすべての男子に与えられると定められたから。				14.4	68.3	16.0	
		部分点				1.3			
	4	C				66.5	33.0	0.5	
5	イ → ア → エ → ウ				12.8	86.7	0.5		
6	1	ア				90.2	8.5	1.3	
	2	発券銀行				46.3	47.8	5.9	
	3	(1)	ウ				69.7	29.0	1.3
		(2)	(例) 高齢者を支える現役世代の負担が増えるのを抑えることができるから。				33.0	51.3	8.8
部分点				6.9					

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から 10 人に 1 人の割合で抽出した 376 人分の答案を
対象として算出した。